【ねがいましては】

平成２５年６月２４日　　*KYOWA SCHOOL*
第２７２号

「抗生物質と漢方」

目の前にいつのものなのか、新聞の切抜きがあります。よほど目に止まったものであったことは確かです。

題目は「体罰と漢方薬」。元中学校校長であった田中章博さん（６１）は、大阪府摂津市の中学校を回りながら、部活指導にあたっている若い教師の相談に乗っているのだそうです。サッカーの日本代表であった本田圭佑選手などを指導した方です。田中さんは３６歳の時、日本サッカーの父と言われたドイツ人のクライマー氏に会った際、訪ねました。「どうしたら勝てますか・・・。」すかさず返事が返ってきました。「あなたの勲章は勝つことではない。育成です・・・。」その言葉を胸に、その後、本田選手を輩出することになったそうです。

田中さんが自信をもって言われること・・・「今の子に足らんのは失敗体験の方だ。」

全く同感でした。どうしても成功体験ばかりを追い求めてしまうのが人情でしょうが、時間を経て「良かった」と感じられるのは、はたして成功体験なのか、失敗体験なのか・・・。

そしてその記事の最後の部分に書いてある文をそのまま記します。

「勝つためにすぐ効く抗生物質のように体罰を加える者がいる。教育はゆっくり効く漢方でないと・・・。」

今の文をそのまま『勝つ』を『合格』、『体罰』を『強制』に変化したものを記します。

「合格するためにすぐ効く抗生物質のように強制を加える者がいる。教育はゆっくり効く漢方でないと・・・。」

ぴったりだったのです。スポーツは『勝つ』。勉強は『合格』。まさにその中に隠されているのは、真の教育とはかけ離れたものなのではないか・・・。

本来の勉強の目的は学ぶことの楽しさを伝えること。子どもたちの心がどんどん前向きになっていくこと。生きることの素晴らしさを感じること。そして何よりも大切な原点・・・地球上の様々な生物の中にあって、『ひと』として生を受けたことにしあわせを感じること。これは家族に深い愛情の念を抱いていることにつながります。

お母さんに会えて良かった。お父さんに会えて良かった。おじいちゃん、おばあちゃん、きょうだいたちに会えて本当に良かったと思うことです。

さて、これを目にされている方々のご家庭は、はたして・・・・。

ひょっとして減点ばかりで出来上がってしまったお子さんにしてしまってはいないでしょうか。ここはダメ、ここもダメ、マイナス面ばかりが目に付いてしまって、なんとかその部分を修正しようと、イライラばかりがつのってはいないでしょうか。その筆頭が「成績」なのでしょうが、成績を上げるべくついつい口から出てしまう「勉強しなさい。」

これひょっとすると、冒頭の体罰に近いものなのかもしれません。なぜならそれでもやらない場合、強制的に進学塾などに通わせるかもしれないからです。そこで待ち受けているもの・・・テスト、宿題、評価。子どもたちにとって、この３つはすべて体罰に等しいダメージを残してしまうものだと思います。

「現実を考えると・・・。」と、思われる方は多いと思います。ここで言う現実とは、周りのことだと思います。日本の東京に隣接しているこの地域。周りはどんどん中学受験をし、周りはどんどん有名大学目指して出費を重ねる・・・。この現象、実は子どもたちが発する、皆スマートフォン持っているから私にも買って、皆ゲーム機持っているから僕にも買って、と同じ気がいたします。

目を海の向こうへ転じます。フィンランドでは塾が無いのだそうです。小学校・中学校を通じて、『学ぶ』の基本スタイルをしっかり習得していますので、その必要が無いようです。学校は学ぶところ、ですから授業中寝てしまうことは非常に珍しいことになります。ある日本人がフィンランドに留学した際、あまりにも授業内容がわからなかったので、ついつい居眠りをしてしまったそうです。授業終了後、クラスメイトたちは珍しそうに見つめていたそうです。

一方、教師たちは教えることが仕事ですから、それ以外のことは極力少なくなっています。子どもたちとのコミュニケーションを大切にし、授業終了後は教師と生徒がいっしょにそのまま校門を出てゆくことも珍しくないようです。

教育の基本スタイルはどちらが自然体なのでしょうか。日中、学校でしっかりと居眠りをし、夜、塾で必死にペンを走らせる・・・。学校は学ぶところ、一旦学校を出れば将来を見据えた自身だけの個性豊かな時間を消費する。

部活に入った以上は勝たなければ意味が無いのでしょうか。勉強する以上は合格しなければ意味が無いのでしょうか。双方ともに抗生物質のような気がいたします。

その子のこころをじっくりと見つめてあげる。そっと目線をそろえて肩をならべてあげる。こころから発する声をじっと聞いてあげる。生きる意味を語り合う。しあわせの意味を語り合う。

気がついたら「ありがとう」の声がお互いに発せられる。そしてなによりも尊いプレゼントが子からもたらされる。

『笑顔』です。知らずのうちに、笑顔を摘み取ってはいないでしょうか。笑顔を摘み取ることは、道端に命がけで精一杯咲いている一輪の花を、何の理由も無く摘んでしまうことと同じではないでしょうか。

さあ子どもたち、君が忘れかけていた『笑顔』を取り戻そうね。

縁あって私のところへ来た子たちからこぼれる言葉、「ここで勉強するとホッとする」（ニコッ！）、ありがとね。